令和6年度第2回茨木市環境審議会意見整理表

資料2

No.	頁(第2回素案)	委員のご意見	事務局の回答	頁(第3回素案)
1	1	ウェルビーイングについて、用語説明を記載していただきたい。	P4コラム①で記載した。	4
2	1	ウェルビーイングを実現するために、茨木市の新たな取り組みとして具体的には何をしていくのか。	ウェルビーイングは最上位の目的でありあるべき姿であるため、P50以降の全ての取組が繋がっていると考えており、特に明示はしていない。	4
3	1	計画策定・改定の趣旨について、第2次計画の成果と課題から第3次計画はどう構築していくのか、説明を加えてほしい。基本施策1)脱炭素2)自然環境3)自然の循環4)生活環境について、各基本施策で新しく取り組む事は何か明示する。特に1)脱炭素について。	第2次の成果はP9～P19において整理した。第3次の基本施策においてどう取り組んでいくかは、P41～P46の4つの基本施策の考え方において記載した。	9～19 41～46
4	1 2	ネイチャーポジティブや生物多様性がもたらす生態系サービス等がウェルビーイングに繋がり循環することを含めて、茨木市らしい環境基本計画像について、冒頭に図を用いて記載してほしい。	P4コラム①、P5コラム②において記載した。	4 5
5	4	他課との連携については少し前書きで書いて欲しい。市役所内でもいろんな方と連携しながら行っているんだということを見せると、教育などいろんなところに波及していくと思う。	P8、1.6(3)市の責任と役割に記載した。	8
6	5	2.1環境」に関する社会情勢(2)気候変動の深刻化について、世界の平均気温変化、温室効果ガスの排出量データのグラフ化と異常高温、気象災害の多発を図化したものを挿入してはどうか。(図化したものを追加することにより、協調でき、危機感が共有できる)	P21に追加した。	21
7	9	次年度から生物多様性増進活動促進法が施行されるので、冒頭以外のどこかに盛り込んでほしい。	P27の動向の表に記載した。	27
8	9 35～53 指標掲載 箇所	数値目標について、議論の根拠も出てくるので、基本的には今ある数値を整理したほうがよい。第3次環境基本計画と他の計画でめざしている数値があれば、9ページの図表に記載するのがよい。	スペースの関係上、各個別計画の目標数値を全て書き出すことが困難であり、記載していない。	26～28
9	9～10	9ページ、10ページの発行元について、世界、国、大阪府、茨木市のそれぞれで色分けをした方がよい。	色分けをする(最終原案にて色は確認予定)。	26～28
10	9～10	9ページは時系列に並べるのではなく基本施策ごとに分けて書いた方がよい。	P41～46において、基本施策ごとに、分野別計画、主な関連法律を記載した。	41～46
11	12	12ページの大阪の気温のグラフでは気温が上がっていることが分かるグラフに修正してほしい。	グラフを修正した。	30

令和6年度第2回茨木市環境審議会意見整理表

資料2

No.	頁(第2回素案)	委員のご意見	事務局の回答	頁(第3回素案)
12	16 17	16、17ページのグラフが折れ線になっているが、折れ線は時系列を示すものであるため変更すべきである。	グラフを修正した。	34,35
13	17	17ページのグラフで示されているスコアが低いものについて、原因を分析し課題を可視化してほしい。	グラフを修正した。	34,35
14	18	18ページの「環境の現状」という言葉は何をもって現状と記載しているのか正確に表現すべきである。	次期計画策定中における最新値(令和5年度実績値)をもって現状の分析を行う旨記載した。	9
15	18	18ページに記載の補助制度について、どのような制度か詳しく記載してほしい。	課題整理の記載方法の修正をした。	15～17
16	18	18ページに記載の「太陽光発電設備導入件数」の減少理由について、「コロナ禍における機械の部品不足」は時系列と合わないため相関がない。FITからFIPへの移行など、要因は様々に考えられるため分析が必要である。	ご指摘のとおり、件数の推移については、複合的な要素による結果と思われるため、今後は、件数だけではなく導入量も指標にし、動向確認を行うこととする。	16
17	18	18ページからの分析については、近隣の市と比較した茨木市の特性をふまえて、茨木市がどのような位置付けにあるのかを考えて分析してほしい。	各値の前提条件が市町ごとに異なるため単純比較できない項目が多く、人口、土地利用、産業構造が異なるため、分析が困難であるため、今回分析は行っていない。	9～19
18	18	マンションや賃貸ビルのオーナーに対しては、例えば太陽光発電設備の設置や、遮熱塗料を塗ってもらうこと等、企業に対しては電気自動車を導入してもらう等、どのように働きかけるのかを考える必要がある。	効果的なアプローチについては、検討が必要と考えている。	
19	18～26	2.4環境の現状の各施策の記載の順番は、第3次計画ではなく第2次計画に合わせた方がよい。	そのように修正した。	9～19
20	18～26	2.4環境の現状の各施策は分野ではないか。	第2次計画での施策の捉え方のまま施策とした。	9～19
21	18～26	第2次の現状、課題を列挙しているだけのように見える。これらを第3次計画に繋げる構想はあるのか。	繋げていく考えである。次回に向けて構成の部分から整理をしていきたい。	9～19
22	18～26	前計画の振り返りの数値などが多く、今回の計画との市民の方が誤って判断しないかが心配です。	わかりやすいよう表記した。	9～19
23	18～26	18ページからの各施策について、第2次茨木市環境基本計画の施策ごとに取組の内容と目標を記載した上で、評価を示すものを追記し、それをふまえた現状と課題という流れで総括を記載をすべきである。	各施策ごとに環境指標のまとめを記載し、現状・分析・課題を示した。	9～19

令和6年度第2回茨木市環境審議会意見整理表

資料2

No.	頁(第2回素案)	委員のご意見	事務局の回答	頁(第3回素案)
24	22～23	基本施策3資源の循環(P22～23)について、コスト意識を高めるため、また貢献度がわかりやすくなるため、集団回収における減量効果を収集経費+処理経費(市民ひとり当たりコスト)のコスト面よりも提示してはどうか。	資源物の回収は、収集や処理経費の削減が目的ではなく、ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみ問題に対する市民への意識向上を図ることを目的としている。	18～19
25	23	ごみの処理費用が近隣の都市部と比べて高いのかどうかの分析が必要である。	令和4年2月発行の茨木市一般廃棄物処理基本計画による特例市27市間での比較では、本市の「人口1人当たり年間処理経費」では、13,010円/tで23位となり、平均よりも評価がやや低く、さらなるごみの減量や、ごみ処理費用の削減が必要であるといえる。	
26	23	茨木市のごみ処理場は電気回収量が多い。ごみ処理費用の中にその辺も入れて試算しているのか。処理コストがこれだけかかっているけど、沢山電気が回収できていますよということもふまえて分析してほしい。	本市公表のごみ1t当たりの処分経費については、売電等による歳入は評価していないが、処分量に対する経費として、令和4、5年度は25,786円/t、24,884円/tとなり、対前年度比で減少している。これは、令和5年度から始まった摂津市との広域化によるごみ量の増加率より、処分経費の増加率が下回ったことが考えられる。また、売電実績でも、84,681,227円/年、126,271,442円/年となり、対前年度比で増加しており、費用対効果のある操業に繋がっていることが考えられる。	
27	26	CO2や光化学オキシダントを減らすために、地元のバス会社と連携し、都市部での電気バス導入、渋滞の多いエリアの信号改善、車幅の改善、右折専用道路を作る等、施策を検討してほしい。	ご意見としてお伺いし、担当部局に伝えさせていただく。	
28	27	27ページに計画策定の基本的な考え方が(1)～(4)まで記載されているが、それぞれについて茨木市の他の計画と関連するのかわかるようにした方がよい。少なくとも茨木市の最新の計画について明記したほうがよい。	P41～46において、基本施策ごとに、分野別計画、主な関連法律を記載した。	41～46
29	28	4つの環境像の一つに「自然を身近に感じてくらせるまち」とあるが、この「自然」とはどのような意味なのか。	第6次茨木市総合計画(案)からの言葉で、「北摂山系の豊かな自然が守られ、まちなかに身近な緑があふれることで、多様な動植物と触れあうことができ、癒しや健康の増進などにつながり、快適な暮らしができるまちをめざします。」とある。	40等
30	28 33	ウェルビーイングやネイチャーポジティブ等の重要なキーワードを、市民向けに分かりやすく解説してほしい。	わかりにくい用語については整理をして、今あるコラム等に補足してページを設けた。	4,5
31	29～32	28ページ、31ページに出てくる施策は施策なのか疑問が残るので、施策の共通認識がほしい。	施策は、総合計画の捉え方にならっている。また、P6に記載のとおり、目標を達成するための方針と考える。	6
32	31	31ページの2)の②のエネルギー設備導入に関する記載でZEB・ZEH化とあるため、これを進めるための施策がほしい。	ご意見としてお伺いがいささせていただきます。P47は系統図として整理した。	47

令和6年度第2回茨木市環境審議会意見整理表

資料2

No.	頁(第2回素案)	委員のご意見	事務局の回答	頁(第3回素案)
33	31	31ページに地産地消とあるが、何の地産地消なのか書いてほしい。	系統図として修正したため、記載していない。	
34	33	33ページの下にある基本戦略の1～5は非常に重要であり、どの項目も環境改善の施策に非常に役に立つものである。自然環境、自然資本を守ることが社会資本も人間資本も守ることになり、その結果としてウェルビーイングがあるんだということを知りやすく示してほしい。	基本戦略については、P22に掲載した。 また、ウェルビーイングについては、P4コラム①において記載した。	4 22
35	33	33ページの表は非常に重要な表であるが見方が分からない。環境省のホームページから引用するだけでなく、この図の重要性を分かりやすく記載してほしい。	P5において修正した。	5
36	33	コラム③ネイチャーポジティブ実現に向けた、自然と共生する豊かな社会において、ネイチャーポジティブについて、より詳しい説明をしたほうがよい。現状の表記では、市の施策とのつながりがわかりにくい。	P5のコラム②で説明した。	5
37	36	太陽光システムの設置は非常に望ましいことではあるが、都市部における消費者が簡単にできる方策として、再エネ由来の電力の購入があることも認識しておいたほうがよい。	P48コラム⑤等に電力切替の記載をした。	48
38	31～32	(2)計画の体系(P31～32)について、「取組内容」を、「各主体の取組内容」に変更し、「誰が(市、市民、事業者・団体)取り組む事項か？」を明確にしたほうがよいです。	系統図として修正した。	47
39	31～32	(2)計画の体系(P31～32)について、「促進」と「推進」の使い方を統一すべきです。例えば、p32で、「②事業系ごみの再資源化の推進」は、「②事業系ごみの再資源化の促進」ではないでしょうか。	計画の体系については、総合計画と文言を合わせている。他の箇所でも文言を整理した。	47
40	31～32 35～53	31ページ、36ページについては施策をリスト化してほしい。施策があるのか、これから作るのかが分からないと検証しづらい。	P50以降の各施策の内容と重複するため、系統図として整理した。	47
41	34～53	各基本施策1)～6)環境指標について ①用語説明を記載していただきたい。 ②目標値設定できないか(現状の環境状況を認知することができる。2、5、10年後の目標がわかる)	①用語説明は、第4回で提示する原案において最終提示する。 ②環境指標の中で、目標が設定できるものがあるか検討する。	

No.	頁(第2回素案)	委員のご意見	事務局の回答	頁(第3回素案)
42	35～53	<p>基本施策全体の市民の取り組みについて、この環境基本計画自体をどれだけの市民が興味を持って見てくれるか疑問。全部読んで内容を理解してくれるのは、ほんの一部の方々だけだと思う。基本施策の市民の取り組みの中で、コストがかかる取り組み(ZEH化等)は昨今の物価高騰の中、取り組む事が難しいため、まずはコストがかからずすぐに実践できる「省エネ行動」「3きり運動」「食品ロス削減」「3Rの実践」などを「環境に対する配慮を持ったスマートな行動」で、しかも家計の負担を減らす効果もあるということを、この基本計画や施策を読んでもらう前に、わかりやすく市民に啓発して(例えば広報いばらき等で特集してもらうなど)それから茨木市の環境に対する方針を理解してもらうというのが順序だと感じる。まずは、多くの市民に環境に対する意識を高めてもらうのが大切だと思う。エコショップ認定制度やエコポイント、ゴミ分別アプリなど茨木市独自の良い取り組みがあるが、まだ認知度が低いように感じる。これらもどんどん市民に発信して、1人でも多くの市民に関心を持ってもらうのが、この計画の「市民が考えるまちの姿」や、基本条例の「人と自然が共生する、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会」そしてその先のウェルビーイングの実現につながると感じる。</p>	<p>周知について以下を実施。また、今後もさらなる周知啓発に努める。</p> <p>啓発:今年度6月広報誌特集(エコ活) ゴミ分別アプリ:転入時にお知らせちらしを配布。DL数は年間1万、開始から計約6万。 エコショップ:広報に取組(写真付き)内容を掲載。 ※令和5年度1件、令和6年7月から3か月に1回掲載。</p> <p>エコポイント:主催事業でちらし・ポイントを配布、またHP掲載等で周知。</p>	
43	41～54	<p>P41～54においても、「促進」と「推進」の使い方を統一すべき。 この基本計画の作成者は「茨木市」なので、①「促進」とは、「市民、事業者・団体」が取組を進めることを「市が促す」意味になり、②「推進」とは、「市」が取組を進めることを、「市が推し進める」意味になる。</p>	<p>文言を整理した。</p>	50～68
44	全体	<p>情報発信・教宣の仕方について、YouTubeでも公開、パブリックコメントや教宣資料等。若い人の意見を集めやすい。行政への参加の出発点になるのでは。(前第2回審議会で発言している)</p>	<p>様々な世代の方のご意見をお伺いする方法を検討する。</p>	
45	その他	<p>地震等自然大災害の対処について、多大に発生する事が予想される災害廃棄物処理:想定量、集積手段、場所、処理能力。危険管理部門との連携(数年前に発生した北部地震を教訓として)</p>	<p>災害廃棄物処理計画に記載している。</p>	
46	その他	<p>茨木市の小学4年生、5年生に配布している冊子“かんきょう”について、クオリティーが高く、わかりやすい内容で、とてもいい冊子だった。少し手を加えて一般の家庭にも配布してみると良いのでは。 費用対効果がどれくらいかはわからないが、少しは市民に興味をもってもらえるのではないかと思う。</p>	<p>費用対効果も含めて、環境に対して、市民の方に関心を持ってもらえる手法の検討を行う。</p>	

令和6年度第2回茨木市環境審議会意見整理表

資料2

No.	頁(第2回素案)	委員のご意見	事務局の回答	頁(第3回素案)
47	表紙 その他	表紙タイトルに「第3次」を付ける必要がある。第2次環境基本計画、環境基本計画(第2次)等、書き方を統一した方がよい。	表紙タイトルに「第3次」と記載した。計画名称の書き方を統一した。	表紙 その他
48		ネイチャーポジティブやウェルビーイングについて、一般市民の方にしてほしいこととその理由をわかりやすく書いてほしい。	ネイチャーポジティブについては、P5コラム②において記載した。ウェルビーイングは最上位の目的でありあるべき姿であるため、具体的な行動は示していない。	4,5
49		審議会などで携わっている課を越えて、他部署の連携もあった方がいいと思う。	ネイチャーポジティブやウェルビーイングは庁内でも言葉が十分に浸透していない。今回の策定をきっかけに他部署での認識を深められる取組を検討していく必要があると考える。	
50		省エネ家電への補助制度について、何かいい考えがあれば提示してほしい。	環境基本計画に補助金(事業)の内容を記載することは現在のところ考えていない。 しかし、再エネ・省エネの設備導入について補助対象や金額等を見直し、様々な方向性で検討した上で、議論していきたいと考えている。	
51		ごみ処理のコストが非常に大きい。市民にコスト意識を持ってもらうことが重要である。	小学生を対象に行っている出前講座ではごみ処理のコスト等について分かりやすく書かれた副読本を使用している。市民の方に対しての意識づけの取組を今後も継続していきたい。	
52		元々あった自然については上手く説明できない部分があるので別冊子で説明が必要だと思う。	本計画で別冊子は作成しない。今後環境資源調査等の事業実施の際に、市民向けの冊子作成を検討する。	
53		茨木には北摂山系や河川等の多様な生態系がある。そのような自然環境の素晴らしさをもっとPRすべき。	今後の事業の中で検討する。	
54		茨木の農産物を重要視し、地産地消を推し進めるということであれば、外来生物や害獣駆除の実態をPRすべき。	所管課に共有し、今後の事業の中で検討する。	
55		フードドライブ、フードシェアリングについて、運営団体や利用者、仕組み、茨木市としての支援の内容を教えてください。	フードドライブについて、本市では平成29年から環境フェアで実施している。民間企業でも実施しているところも把握している。寄付された食料品は、こども食堂や福祉団体を通じて配分している。 フードシェアリングサービスについては、店舗が食料品の値引きの情報を発信し、利用者はスマートフォンから予約ができるという民間のサービスがある。本市でも同様の取組を試みたが実現しなかった。生産し過ぎた食料品等を割引価格で販売する「クラダシ」というサービスがあり、市として連携して実施している。	
56		環境資源調査について、市が実施するよりも市民の方が見つけた種の情報をホームページ等に投稿できるようにし、情報収集をした方が今後の調査が進むと思う。	環境省等のサイトの活用も含めて様々な情報収集の方法を検討していきたい。	

令和6年度第2回茨木市環境審議会意見整理表

資料2

No.	頁(第2回素案)	委員のご意見	事務局の回答	頁(第3回素案)
57		行政の調査では限界がある。市民が動植物の情報を投稿できる民間のアプリがある。これまで興味のなかった人にとっても興味持つきっかけとなる可能性も考えられるので、活用していければよいと思う。	ツールとして何を活用するかは、今後の事業の中で検討させていただく。	
58		茨木市は学習館や環境センターなどが無いが、市内の様々な場所に環境について学習できる施設等がある。都市計画マスタープランに掲載されているような茨木市全体の地図に、里山センターなどの環境に関する施設を載せて、茨木市が行っていることを分かりやすく示してほしい。	茨木市域の地図は今後掲載する。	
59		自然資本を維持、回復、充実させて、システムを構築してウェルビーイングに繋がる、そのシステムを上手く構築するための基本計画だと思っている。システム構築が、繋がって見える書き方に留意してほしい。	計画の構成、書き方を工夫する。	

※委員の意見内の頁については、第2回審議会の素案の頁番号である。